V 本町の人口問題を巡る課題

本町の人口問題を巡る課題は次のとおりです。

【人口動態の概要】

○平成 17 年（2005 年）をピークに人口減少へ
○人口ピラミッドの山が着実に上方（高年齢層）にシフト
○外国人の総人口は近年、6,000 人前後で推移
○外国人の人口構成は高齢者層がゆるやかに増加
○世帯類型では単独世帯が増加
○男女とも 20～39 歳の層で未婚率が上昇
○合計特殊出生率は全国と群馬県の出生率は上回るも近年太田市を下回る
○出生数が死亡数をかろうじて上回る
○転出・転入で近年は社会減が続く
○かつては自然増・社会増、近年は自然減・社会減へ

【人口動態の詳細】

○男性の若年層の社会移動が激しい
○男性は県外（東京圏以外）から転入超過、女性は東京圏への転出超過
○北海道、東北、北関東、中部ブロックからの転入超過が続く
○東京圏への転出超過と県外（東京圏以外）からの転入超過が目立つ

【就業の状況】

○20～30 歳代の男性の就業率は全国を上回り、女性は全国値と同水準
○男女とも製造業の就業率が極めて高い
○製造業の男性は 40 歳代、女性は 30 歳代後半から 40 歳代前半の層が多い
○昼夜間人口比率の低下続くも、群馬県内では最も高い